

# 12月月例労働経済報告のポイント

## 一般経済

- 景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、緩やかに持ち直している。
  - ・生産は、緩やかに持ち直している。輸出は、横ばいとなっている。
  - ・企業収益は、減少している。設備投資は、下げ止まりつつあるものの、このところ弱い動きもみられる。
  - ・企業の業況判断は、大企業製造業で低下しており、全体としても小幅改善となっている。先行きについても、全体として慎重な見方となっている。
  - ・雇用情勢は、持ち直しの動きもみられるものの、東日本大震災の影響もあり依然として厳しい。
  - ・個人消費は、おおむね横ばいとなっている。
  - ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。
- 先行きについては、各種の政策効果などを背景に、景気の緩やかな持ち直し傾向が続くことが期待される。ただし、電力供給の制約や原子力災害の影響に加え、欧州の政府債務危機などを背景とした海外景気の下振れや為替レート・株価の変動等によっては、景気が下振れするリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

## 労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、持ち直しの動きもみられるものの、東日本大震災の影響もあり依然として厳しい。
  - ・ 10月の完全失業率（季節調整値）は4.5%。  
※ 岩手県、宮城県及び福島県を除く44都道府県では4.4%で3か月ぶりに前月差で上昇。
  - ・ 就業者数（季節調整値）は6,246万人。  
※ 岩手県、宮城県及び福島県を除く44都道府県では5,980万人で2か月連続で前月差で増加。
  - ・ 雇用者数（季節調整値）は5,461万人。  
※ 岩手県、宮城県及び福島県を除く44都道府県では5,231万人で2か月ぶりに前月差で減少。
  - ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.67倍（前月と同水準）。
  - ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、1.13倍（前月差0.02ポイント改善）。
  - ・ 現金給与総額（原数値・確報）は268,628円で、前年同月比横ばい。